
2019年度

戸田市中小企業振興会議

提言書

2019年5月

戸田市中小企業振興会議

目 次

- 1 はじめに
- 2 提言に至る背景
- 3 提言の目的
- 4 提言内容
 - (1) 戸田市における賑わいのあるまちづくりに向けて
 - (2) 戸田市のCSR認証制度について
- 5 おわりに

〈参考資料〉

- 1 第4期戸田市中心企業振興会議 審議経過報告
- 2 第4期戸田市中心企業振興会議 委員名簿

1 はじめに

今日、我が国の産業は、先行き不透明な経済状況、急速なグローバル化の進行、産業構造の変化、価値観やライフスタイルの多様化、人口減少・少子高齢化社会への備え、さらには地球環境問題への対応など、厳しい状況にあります。

このような中で、地域の産業をさらに活性化させ、活力と賑わいのあるまちを実現するうえで重要となるのは、産業に携わる関係者が相互に知恵を出し合い、連携そして協働していくことです。

戸田市中心企業振興会議（以下「振興会議」という。）では、会議設立の趣旨を踏まえ、本市の中小企業振興施策の調査研究などを通して提言を重ねてきました。

今期の会議においては、「戸田市における賑わいのあるまちづくりに向けて」を議題に、本市の観光振興と合わせて、どのようにしてまちに活力と賑わいを創出するかの方策について協議してきました。

また、「戸田市産業振興計画」における重点プロジェクトの一つ「CSR認証制度」についても、地域経済の持続的発展につながることから、その導入のあり方などを検討してきました。

この度、振興会議での審議を経て、取組みについての方向性を得たことから、ここにご提言申し上げます。

2 提言に至る背景

【観光振興に向けた取組み】

国においては、観光立国の実現を目指し、平成20年度に観光庁を設置しました。また、「観光資源の魅力を高め、地方創生の礎に」の視点が掲げられた「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定し、観光先進国への新たな国づくりに向けた取組みが進められています。

埼玉県においては、東京2020オリンピック・パラリンピック等を契機とした外国人観光客100万人の誘致を基本方針とする「第2期埼玉県観光づくり基本計画」を策定し、県が一丸となった観光づくりが進められています。

本市は、「彩湖・道満グリーンパーク」や「戸田ボートコース」をはじめ、水と緑豊かな空間など多くの資源や強みを持ち、将来にわたって更なる発展の可能性を秘めています。

しかし、認知度が低いことや明確な都市イメージが持たれていないことから、資源や強みが有効に活用されているとはいえ、地域経済の活性化や継続的な市のPRにつながっていないのが現状です。

そのため、本市の地域資源である「彩湖・道満グリーンパーク」や「戸田ボートコース」を活かした観光振興により、市の認知度をさらに高め、域外から人を呼び込むとともに、市の商工業振興に結び付けることが課題です。

【CSR推進に向けた取組み】

国においては、情報開示項目の提示、表彰や好事例の情報提供など、企業の取組

みが促進されるような環境の整備を行っています。

埼玉県においては、ホームページで「CSR活動に積極的に取り組んでいる県内企業」の事例紹介を行うなど、活動の推進に向けた支援が行われています。

本市には、印刷関連産業や食品関連産業を中心とした製造業や、倉庫や配送センターなど物流加工業を中心として多くの産業が集積し、活発に事業活動が行われています。

商業統計調査及び経済センサスによると、本市の商業系の事業所数及び従業者数は減少傾向にあります。また、「戸田市産業振興に関する市内企業実態調査」によると、市内事業者の持つ課題として、人材不足、従業員の教育、他店との競合、販売先・受注先の減少などが挙げられています。このように、市内の中小企業を取り巻く環境は依然として厳しい状況です。

そのため、CSR認証制度の導入により、市内中小企業がCSR活動で事業活動の維持拡大を図りつつ、社会的健全性を両立させた経営を実現し、地域経済の持続的発展につなげることが課題です。

3 提言の目的

本提言の目的は次の2点です。

(1) 本市の地域資源「彩湖・道満グリーンパーク」や「戸田ボートコース」などを活用した観光振興を通して、市への来訪者を増やし、消費の活性化につなげ、市の中小企業振興を図ること。

(2) CSR認証制度の導入を通して、市内中小企業における社会的信頼の向上と事業活動の維持拡大につなげ、地域経済の持続的発展を図ること。

4 提言内容

(1) 戸田市における賑わいのあるまちづくりに向けて

本市の地域資源「彩湖・道満グリーンパーク」や「戸田ボートコース」などを活用した観光振興により、市に訪れる人を増やし、活力と賑わいのあるまちを実現するため、以下の4つの柱に沿って協議を行いました。

提言の柱

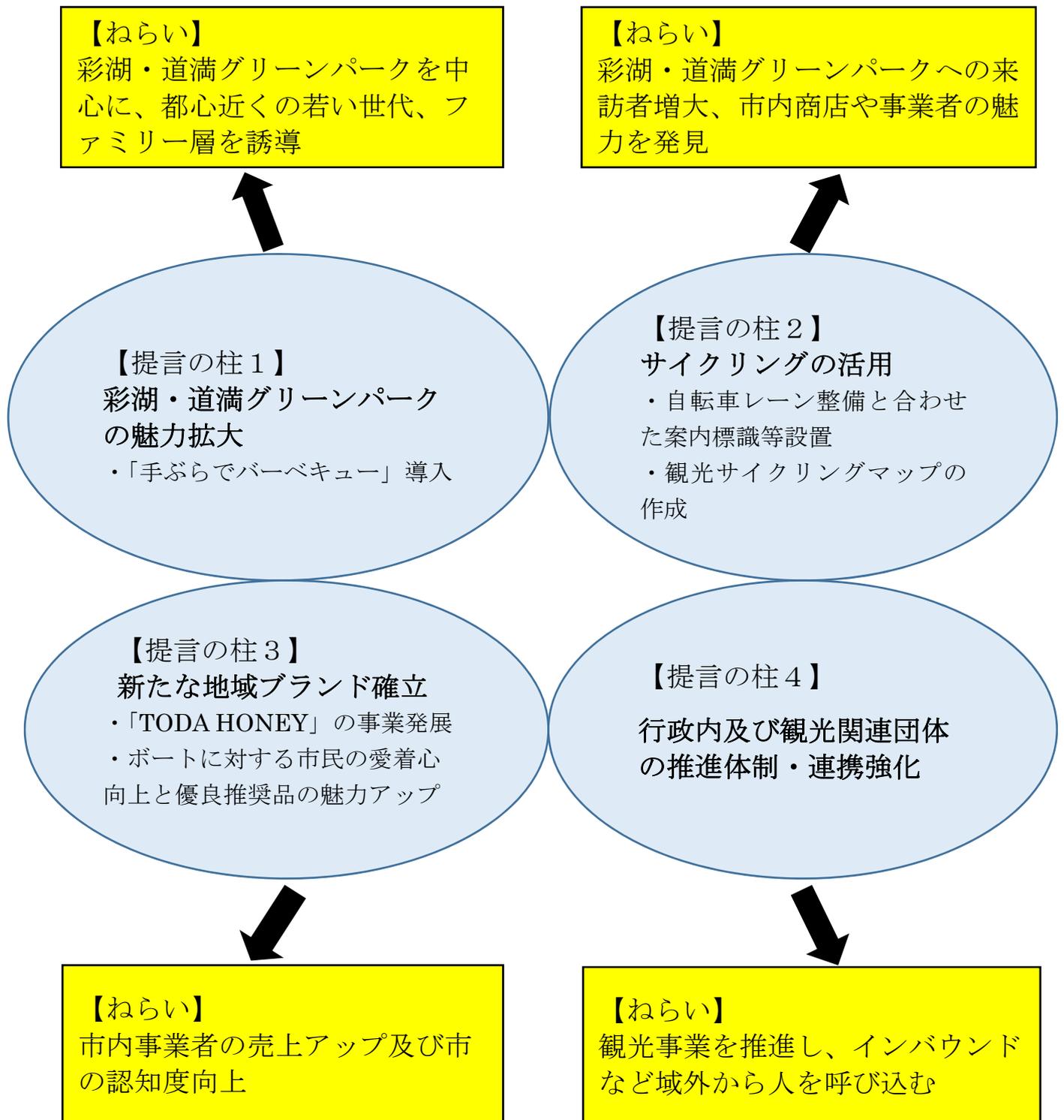
- 【1】彩湖・道満グリーンパークの魅力拡大
- 【2】サイクリングの活用
- 【3】新たな地域ブランド確立
- 【4】行政内及び観光関連団体の推進体制・連携強化

これらを一覧にした「提言の全体図」は、図表1のとおりです。

図表1 「提言の全体図」

趣旨

「彩湖・道満グリーンパークをはじめとする地域資源を活用した観光振興により、本市の交流人口を増やし、活力と賑わいのあるまちを実現する」



【提言の柱1】

彩湖・道満グリーンパークの魅力拡大

○「手ぶらでバーベキュー」導入

本園は、中心広場やバーベキュー広場で予約不要かつ無料でバーベキューをすることができ、休日には市内外からの多くの利用者で賑わっています。

現在、バーベキューをするには、機材や食材等を各自で用意することになっています。近年、機材や食材または機材のみを施設側で用意する「手ぶらでバーベキュー」が、川口市の荒川運動公園やさいたま市の秋ヶ瀬公園など近隣施設でも導入され、賑わいを見せていることから、本園においても新たに導入することが望まれます。

導入に当たって、市内での消費による経済活性化につながるよう、取り扱う食材については市内事業者のものを使用することが必要だと考えます。

また、利用料金・時間など具体的な管理運営方法については、利用者アンケートなどを含んだ社会実験を行い、利用者ニーズや騒音等の周辺への影響を調査し、その結果を踏まえて検討していくことが望まれます。

なお、「手ぶらでバーベキュー」は他の施設でも行われていることから、本市ならではの特色あるものにすることが求められます。

そのためには、豊かな緑や季節ごとの花々、彩湖でのウォータースポーツなど、本園が独自に持つ魅力を、バーベキュー+αの要素として活用していくことが必要だと考えます。

さらに、「道満まつり」のように、市内事業者等が出店して自社をPRするとともに、訪れた人が楽しめるイベントを多く開催できれば、バーベキューと合わせて楽しむことができることから、本市の独自性にもつながると考えます。

【提言の柱2】

サイクリングの活用

○自転車レーン整備と合わせた案内標識等設置

本市は広域にわたり平坦な地形であり、道路舗装も整備されています。また、彩湖をはじめ、荒川河川敷に沿って水と緑豊かな空間が広がっていることから、サイクリングが本市の魅力的なレジャーであるといえます。

現在、市が作成した『戸田市歩行者自転車道路網整備計画』に基づき、歩行者自転車道路網の整備が進められています。この計画の中で、彩湖・道満グリーンパークに通ずる路線については、令和2年度以降に自転車レーンの整備が計画されています。自転車利用環境の向上を図り、交通アクセスをさらに良くするために、同路線の早期整備が望まれます。

また、彩湖・道満グリーンパークなど観光資源への来訪を誘導するとともに、利用者が迷わず安全で快適にサイクリングできるように、分かりやすく統一された案内標識等を設置することが望まれます。

さらに、サイクリング利用者が途中で気軽に立ち寄ることができるよう、自転車グッズやウェア等の展示・販売、試乗会、市内商店等による出店販売などを行うイ

ベントを、本園を中心に開催することが望まれます。

これにより、サイクリング観光が促進され、市外から多くの来訪者が期待できるとともに、サイクリングを活用したまちのPRや地域の活性化にもつながると考えられます。

○観光サイクリングマップの作成

本市は、埼玉県の「自転車みどころスポットを巡るルート100」において、「水辺の公園めぐりルート」が登録されています。また、一般社団法人埼玉県物産観光協会発行の情報誌「ちょこたび埼玉」においても、さいたま市の秋ヶ瀬公園を出発して戸田公園へと向かう「荒川・水辺の公園めぐりコース」が紹介されています。

来訪者が気軽に快適にサイクリングを楽しむことができるとともに、本市のサイクリング観光をPRするため、「観光サイクリングマップ」を新たに作成することが望まれます。

作成に当たっては、前述した県の登録ルートだけでなく、利用者のニーズに合致し、サイクリング利用の増加が図られるようなコースを設定することが望まれます。

例えば、初心者向けなどのレベル別のコース、さいたま市や川口市など隣接市と連携したコースなどが挙げられます。

また、市内商店等への誘客につながるように、グルメ・スイーツ等の魅力的な店舗や戸田市ならではの独自店舗などの紹介、それらの店舗等を巡るマップなどが必要だと考えます。その場合、スタンプラリーやスイーツめぐりなど来訪者が楽しめるような企画も考えていくことが望まれます。

さらに、戸田ポートコース等の地域資源や市の文化財、おすすめ場所などの自転車見どころスポットを掲載することで、本市への理解や関心を深めてもらうことになると期待されます。

これらの取組みを通して、市内外の多くの人にサイクリング観光の魅力を知ってもらうことにより、本市の認知度がさらに向上し、市外から多くの人を呼び込むことにつながります。

【提言の柱3】

新たな地域ブランド確立

○「TODA HONEY」の事業発展

戸田市商工会は、「市の環境と生態回復の契機とすること」を目的に、平成21年から、商工会館の屋上を利用した養蜂事業「戸田ミツバチプロジェクト」を始めました。

これまで、採れたはちみつを使った洋菓子の製造・販売、市優良推奨品認定、JR東日本と連携したイベントの開催、採蜜体験の実施、市学校給食と連携した商品開発などが行われてきました。このような事業展開を通じて、「TODA HONEY」は魅力ある商品、戸田ブランドとして市内外に発信されてきました。

今後、「TODA HONEY」を本市の強みとしてさらにPRするためには、商工会が実施する本事業を、市が継続支援し、採蜜量を確保していくことが必要だと考え

ます。

会館屋上での養蜂は、行動範囲にある花の量が少ないことや夏季の会館屋上の気温上昇などにより、ミツバチの生活環境を維持し、採蜜量を増やすことが難しくなっています。このことから、会館屋上だけでなく新たな場所で養蜂を行い、採蜜量を確保していくことが望まれます。

また、花いっぱい運動の中で、市街地や彩湖・道満グリーンパークで季節ごとに咲く花々と一緒に、まちの名産品として「TODA HONEY」をPRすることが求められます。

さらに、戸田産はちみつとしての付加価値をさらに高めるため、市内事業者と連携して、「TODA HONEY」を使用した商品や蜜蝋製品等の開発・販売、ワークショップの実施などの取組みを推進していくことが望まれます。

これらの取組みにより、彩湖・道満グリーンパークなどで咲く花々の観賞、「TODA HONEY」や関連商品の購入など市内の観光を目的に、本市への来訪者が増え、まちの賑わいにつながると期待されます。

○ボートに対する市民の愛着心向上と優良推奨品の魅力アップ

本市は、代表的な地域資源の戸田ボートコースを有し、オリンピックを開催した「ボートのまち」としてPRしています。現在も全日本選手権など各種大会が行われ、ボート関係者をはじめ多くの人を訪れています。

一方で、市民におけるボートの利用や関わりは少なく、関心が薄いこともあり、市の強みである「ボート」を活かしきれていない状況です。

今後、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた機運の高まりに伴い、「ボートのまち」を市民やボート関係者に発信するとともに、ボートへの愛着心を高めるための地道な取組みが求められます。

その結果として、市民が「ボートのまち」としての共通認識を持ち、市に誇りを持ち、わがまちをもっと好きになることが期待されます。

また、本市には戸田ブランドとして優良推奨品制度があり、平成29年度末で41品が認定されています。認定商品の一部は、戸田市観光情報館トビックでの展示販売やふるさと納税返礼品として市内外に紹介されていますが、認知度の向上が課題といえます。

認定商品の魅力を高め、さらなる認知度向上や購入増につなげるためには、商品そのものの味・性能の確保や売れる商品への磨き上げが必要だと考えます。

そのためには、事業者が必要に応じてデザイナーやクリエイター等専門家の知見を取り入れることができるような施策が求められます。

例えば、既存の埼玉県産業振興公社の「専門家派遣事業」などを踏まえ、専門家を利用した際の費用補助を行うなどの支援体制を構築することが必要だと考えます。

これらの取組みにより、事業者はデザインやインスタ映えする商品の撮り方や見せ方などについて、専門家の助言を得ながら磨き上げを行うことができ、商品のさらなる魅力アップにつながると期待されます。

【提言の柱4】

行政内及び観光関連団体の推進体制・連携強化

現在、市の観光事業は環境経済部経済政策課で所管し、商工業の振興や地域経済の活性化を目的に、戸田橋花火大会の開催や観光情報館トビックの運営を行っています。また、「公益財団法人戸田市水と緑の公社」が中心となって、フィルムコミッション事業を行い、地域資源など市の魅力を全国に発信しています。

一方、市では年間を通して、各所で祭りやイベントが多く行われていますが、横のつながりが希薄なこともあり、日程や内容が重なり、集客につながらない場合もあります。

また、祭りやイベント、地域資源などの情報が集約されず、宣伝や広報が効果的に行われていないため、観光への取組みが見えづらいたともいえます。

そこで、来訪者の増大につなげるために、市内の祭りやイベントも市の観光資源として捉え、それらを取りまとめ、市の魅力として積極的にPRしていくことが望まれます。

さらに、観光に特化した部署を新たに創設し、関係部署との調整や横断的連携を強化していくことで、事業を総合的に推進し、観光振興を図ることが必要だと考えます。

また、様々な観光情報を一元化し、ホームページやSNSなど多様な情報提供の手法を活用して、市内外に広く発信していくことが求められます。

加えて、観光は、まちの魅力を市内外にアピールするという点でシティセールスと関連が深いことから、これと連動した取組みを推進することも必要だと考えます。

このように、行政だけでなく、地域を担う市民や事業者、関係団体等と連携を図りながら、観光への取組みを進めることにより、高い成果が期待できます。

(2) 戸田市のCSR認証制度について

「CSR認定制度の普及推進による経営リテラシーの向上」については、「戸田市産業振興計画」の重点プロジェクトの一つとして位置づけられています。

振興会議において、企業の持続的な成長・発展と地域経済の活性化を実現するために、社会的に模範や目標となるような市内の企業を認定する制度（CSR認定制度）について協議を行いました。

①CSR認定制度について

CSRとは、Corporate Social Responsibility の略で、日本語では主に「企業の社会的責任」と訳されます。

経済産業省において、CSRとは、「企業が社会や環境と共存し、持続可能な成長を図るため、その活動の影響について責任をとる企業行動であり、企業を取り巻く様々なステークホルダーからの信頼を得るための企業のあり方を指す」と定義されています。

また、さいたま市においては、「企業が、自らの経営の社会的健全性と経済的健全性を両立させるためのキー概念」と定義されています。

このように、CSRは幅広い概念であり、組織によって定義は異なります。

日本では、2003年がCSR元年と言われており、大企業をはじめ、中小企業など多くの企業においてCSRという観点は重要であると考えられてきています。

さらに、多くの自治体において、企業の社会貢献活動を認定している状況です。

②近隣市の状況について

近隣市においては、さいたま市で「さいたま市CSRチャレンジ企業認証制度」、川口市で「川口市地域貢献事業者認定事業」、和光市で「和光市企業市民認定制度」が実施されています。

これらの自治体では、地域経済の持続可能な発展や、市内産業の活性化、市民・企業・行政による協働のまちづくりに寄与することなどを目的として、チェックリストの項目を一定数以上満たす企業や、複数の活動を実施している企業に対して認定を行っています。

また、認定事業者に対する支援策としては、以下のようなものが挙げられます。

- ・認定証の交付
- ・メディア、広報誌、ホームページ及びパンフレット等に掲載
- ・融資制度の貸付利率の優遇
- ・総合評価方式による公共工事における加点
- ・補助金等の補助割合・上限額の引上げ

③会議における意見について

振興会議でCSR認定制度について議論した結果、以下のような意見が出ました。

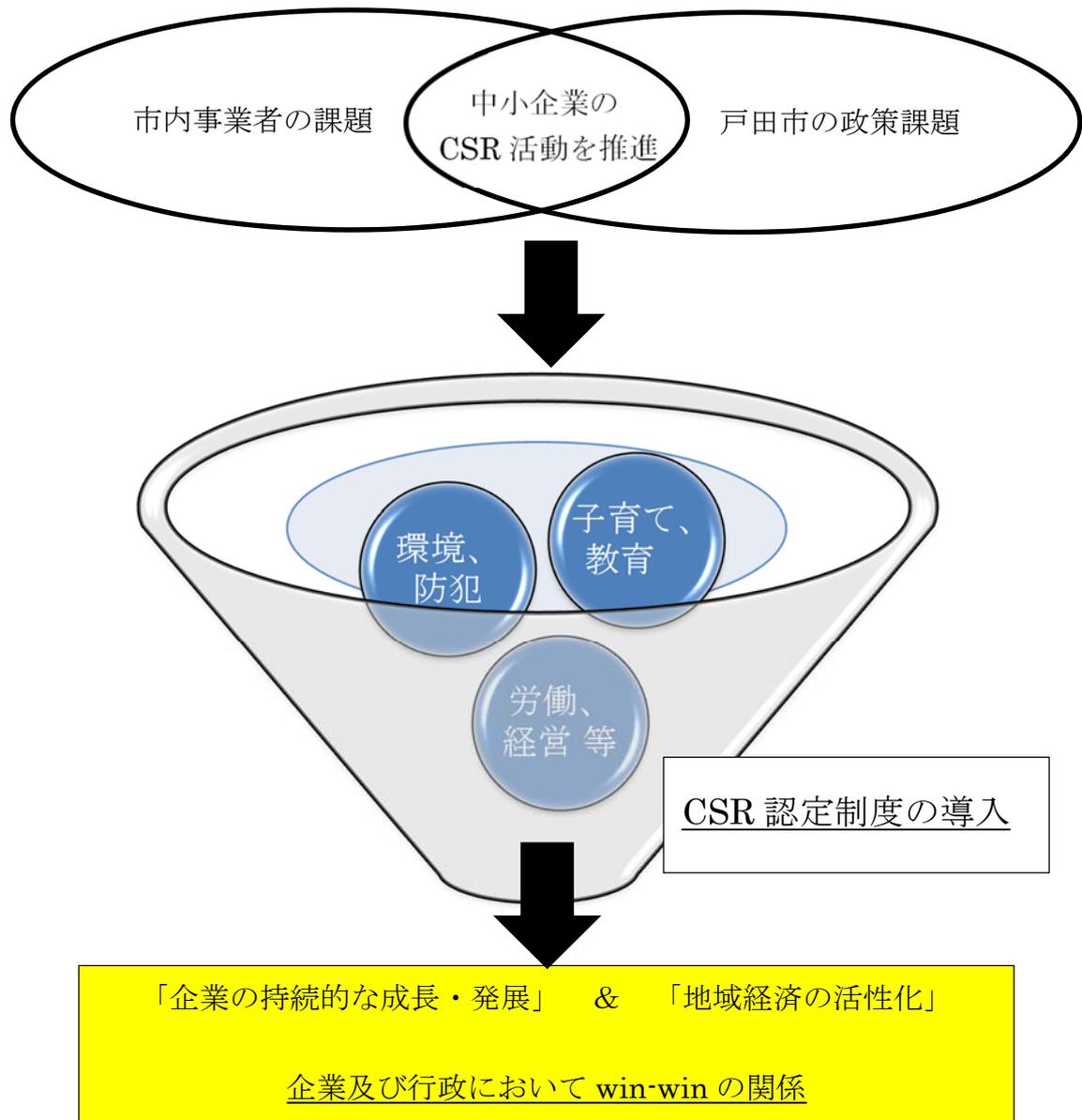
- ・企業の持続的な成長・発展の一助となるような制度にしていくべきではないか。

- ・認定制度の中で戸田市らしさを出していくべきではないか。
- ・大企業、中小企業、個人事業主などの規模を問わず参加できるような制度にしていくことが望ましいのではないか。
- ・制度設計にあたり、ランク制などを取り入れることにより、最初は困難であっても徐々に上位を目指していこうとする企業努力が生まれ、質の高い企業が増えるとともに、市内企業における競争意識が生まれるのではないか。
- ・戸田市が重きを置く分野をいくつか設けて、分野ごとに認定を行うことにより、市が重きを置く取組みを実施する企業が増えるのではないか。
- ・企業を認定するだけでなく、認定企業に対する支援も必要ではないか。

④CSR認定制度のイメージについて

「CSR認定制度のイメージ図」は、図表2のとおりです。

図表2 「CSR認定制度のイメージ図」



⑤実現に向けて

本市としては、近隣市の状況や振興会議における意見を踏まえたうえで、埼玉県産業労働部ウーマノミクス課で実施している「多様な働き方実践企業の認定制度」や「戸田市商工会への加入」などの項目をはじめとして、子育て、教育分野など本市の特色を活かした項目も視野に入れながら、個人事業主などを含め、幅広い事業者を認定していくことが望ましいと考えます。

そして、まずは簡易的な制度として開始し、本市に多くある小規模の事業者においても参加しやすい形で進めていくべきであると考えます。

また、住民や事業者が身近に感じるとともに、制度自体の価値や認知度向上につながるよう、制度の名称についても、「CSR」を前提としつつも固執せず、近隣市のような「地域貢献企業」や「社会貢献企業」等の使用も検討することが必要です。

さらに、事業者がCSR活動を実施するきっかけとなり得る支援策を講じるとともに、事業者に寄り添う形で継続的な支援を行うことが必要だと考えます。

なお、制度設計については、一度設計して終わりではなく、時代とともに発展させていくべきであると考えます。近年では、「SDGs」(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)という国際目標に視点を合わせて、CSRを考えている例もあります。

このように、本市においても、時代の流れに合わせ、常に見直しを行いながら早急に制度を確立することを期待しています。

5 おわりに

今期の会議では、「戸田市における賑わいのあるまちづくりに向けて」を議題に、地域資源を活用した観光振興により、本市の交流人口を増やし、活力と賑わいのあるまちを実現するための具体的方策等について議論を重ねてきました。

そして、市民が誇れるような活気あふれる賑わいのあるまちづくりに向け、次の4つを提言の柱として掲げ、取組みの方向性をまとめました。

【提言の柱1】 彩湖・道満グリーンパークの魅力拡大

【提言の柱2】 サイクリングの活用

【提言の柱3】 新たな地域ブランド確立

【提言の柱4】 行政内及び観光関連団体の推進体制・連携強化

今後、東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、本市においても訪日外国人をはじめ観光客の増加が見込まれ、観光振興に向けた取組みは一層重要になってきます。本市の強みや魅力を活かし、観光まちづくりを戦略的に進めていくことが必要だと考えます。

なお、CSR認証制度の導入に向けては、他市動向の紹介及び検討案としていくつかのパターンを提示しながら協議を重ねてきました。

本市の中小企業を取り巻く状況から考え、多くの事業者にとって身近で、気軽に参加できる制度を導入していくことが必要だと考えます。

そのため、今後、市においては市内事業者や他市の状況などを十分に精査し、本市にふさわしい制度の導入が望まれます。

最後に、この提言が行政施策に反映されることで、本市の中小企業振興につながり、まちに活力と賑わいが生まれ、地域経済の活性化が図られることを期待しています。

< 参考資料 >

1 第4期戸田市中小企業振興会議 審議経過報告

会議名	日時	概要
平成29年度 第2回会議	平成29年7月13日 14:00～16:00	・「戸田市における賑わいのあるまちづくりに向けて」の協議内容確認について
平成29年度 第3回会議	平成29年10月19日 14:00～15:50	・「戸田市における賑わいのあるまちづくりに向けて」の提言の方向性について
平成29年度 第4回会議	平成30年1月30日 14:00～15:45	・「戸田市における賑わいのあるまちづくりに向けて」の提言の全体図／提言の柱1について
平成29年度 第5回会議	平成30年3月27日 14:00～15:45	・「戸田市における賑わいのあるまちづくりに向けて」の提言の柱2について ・「戸田市のCSR認証制度について」の協議内容の確認
平成30年度 第1回会議	平成30年6月22日 16:00～17:15	・「戸田市における賑わいのあるまちづくりに向けて」の提言の柱3について ・「戸田市のCSR認証制度について」の提言の方向性について
平成30年度 第2回会議	平成30年9月27日 14:00～15:55	・「戸田市における賑わいのあるまちづくり」の提言の柱4について ・「戸田市のCSR認証制度について」の提言の方向性について（継続）
平成30年度 第3回会議	平成30年12月13日 14:00～16:00	・「戸田市における賑わいのあるまちづくり」及び「戸田市のCSR認証制度について」の提言書素案について
令和元年度 第1回会議 (案)	令和元年5月28日 16:00～17:15	・提言書の最終確認 ・提言書提出

2 第4期戸田市中小企業振興会議 委員名簿

区分	氏名	所属及び役職	備考	
1号	中小企業経営者	田中 治夫	戸田市商工会 副会長	副会長
		松浦 眞吾	戸田市商工会 理事	
		池田 一男	戸田市商工会 理事	
		引地 智宏	埼玉中小企業家同友会 戸田・蕨地区会 相談役	
		花井 正幸	戸田民主商工会 会長	
		藤田 安志	戸田市商店会連合会 会計	
		小山 忠	埼玉県倉庫協会南部地区協議会事務局	
		溝上 西二	戸田市建設業協会 相談役	～平成30年3月31日
		柴田 節夫	戸田市建設業協会 事務局	平成30年6月22日～
2号	学識経験者	黒田 英一	法政大学大学院政策創造研究科教授	会長
		間藤 雅夫	公益財団法人埼玉りそな産業経済振興財団 主席研究員	
		坂上 成人	埼玉県中小企業診断協会 中小企業診断士	
3号	行政機関職員	村山 聡	経済産業省 関東経済産業局 地域経済部 地域振興課 産業クラスター専門官	～平成30年3月30日
		杉原 総一郎	経済産業省 関東経済産業局 地域経済部 地域振興課 課長補佐	平成30年6月22日～ 平成30年10月31日
		中村 文明	経済産業省 関東経済産業局 地域経済部 地域振興課 係長	平成30年12月13日～
		佐藤 慶朗	埼玉県 企画財政部 南部地域振興センター 副所長(兼)地域防災幹(兼)地域調整幹	
4号	その他市長が必要と認めた者	恵 勇人	六千会	

(敬称略)

※役職については、委嘱時の名称を記載

2019年5月
戸田市中企業振興会議
